

東京で学ぶ 京大の知 シリーズ11

人はなぜハマる？

「ハマる」という言葉は、現代社会では「熱中」も「依存」も表すことができます。それだけ、日々の楽しみや熱中、そして依存というものが、私たちに身近な存在で、それら同士も親しい関係にあるのかもしれませんが。熱中と依存の境目とは何か？人はなぜその境目を越えてしまうのか？そのとき人に何が起きているのか？「ハマる」を知ると、人と社会が見えてきます。

今シリーズでは、4人の講師がそれぞれの専門家の視点から独自のアプローチで迫ります。



第1回 5/28 (火)

熱中と依存の境界線： 精神医学の視点から

村井 俊哉 医学研究科・教授



第2回 6/4 (火)

社会科学で依存症を どうとらえるか？

西村 周三 国立社会保障・人口問題
研究所・所長(京都大学名誉教授・元理事)

スポーツ、趣味、仕事など、人は誰でも何かに熱中します。ところがある線を超えると、人は依存症に陥ってしまいます。では、熱中と依存の境界はどこにあるのでしょうか。精神医学の観点から考えていきたいと思います。

近代社会では、「個を尊重する」ことが重要な社会規範です。しかしこの種の権利が認められる一方で、一定の自制心を持つことも期待されています。それでは疾病に罹患し、一定の社会的義務を果たせない人たちは、どういう風に扱えばよいのでしょうか？このような視点から「依存症患者」について議論したいと思います。



第3回 6/11 (火)

やめる脳、 やめられない脳

船橋 新太郎
こころの未来研究センター・教授



第4回 6/25 (火)

依存の脳画像

福山 秀直 医学研究科・教授

趣味や楽しみとして何かにハマることにより、人生に目的が生まれ、人生をより楽しくすることができますが、それも限度を越えると問題になります。私たちの脳には限度を越えようとするときにある種の警告を発する仕組みがあります。この仕組みを考えてみたいと思います。

依存は人が快楽を望む結果として起こることで、その快楽を求める行為の源として報酬という概念があります。このような依存(はまる)という現象を、脳の機能画像に関する研究の観点から考えてみたいと思います。

講演時間： 各回ともに18:30~20:00の開催となります。

【開催場所・問い合わせ先】

京都大学 東京オフィス

東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟27階

[TEL] 03-5479-2220 [FAX] 03-5479-2221

[E-mail] t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp

[URL] <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/>

京都大学東京オフィスのホームページから申込用紙をダウンロードし、FAXまたはメールでお申し込み下さい。

各回定員100名とし、申し込み締め切りは 5月 20日 (月) となります。全4回のシリーズですが、1回のみお申し込みいただくことも可能です。

なお、定員を超えるお申し込みをいただいた場合は、抽選とさせていただきます。

